

アンケート調査の結果

(質問1) 講演「名古屋大学の基礎セミナーの現状と課題」において、九州大学のコアセミナーに通じる課題が見出されたとお考えでしたら、その課題をお教えてください。

12名という人数の問題。TAの使い方。 / 九大も学部をこえてコアセミナーをする計画があるのでしょうか？ / テーマを全学に公開して、各学部の教員がテーマを考えるきっかけにする / 学部横断的なグループの編成の必要性 / 九大では各学部に丸なげで内容もさまざまであるが、名大では教養科目として行われており、今の九大のスタイルは本来のコアセミナーの目標に合致していないのではないのか。本学ではコアセミナーの概念システムが非常にあいまいで導入に問題あり / シラバス公開は良い。全体の質の向上につながる / 文理融合形式のテーマ例、その進め方の注意点の構成メンバーの多様性の確保。テーマ設定の多様性、評価方法への統一性等。 / 発言、討論能力の育成方法 / 所属学部によって学生の表現能力が著しく異なっている実状を知る機会が学生にも教員にも必要であること / TAの積極的活用 / 受講テーマの選択方法 / 表現力が文、理で異なる。工より文系学生の方が表現が豊かということ。これをどうするか？ 希望のテーマが選べなくても何とか学生は興味を持ってきている。 / 文理共通でやっておられることの利点について認識させられた / 芸工でのコアセミナーの目的は芸工大時代から「芸術工学とは」の理念を考えさせる・教えさせるものであった。しかし、これと別にして、名大の能力開発を中心にしたコアセミナーの設計もよいと考えた。 / 「教育に不誠実な教員がいる」こと / 九大執行部の取り組み。統一的な視点で具体的な科目設計をしてほしい。学部丸投げでは無責任だと思う。文理融合は検討すべき。学部学科ごとではテーマに限られる。特に社会性や視野の拡大が学部ごとでは困難。 / 理系セミナーを後期に担当するので、環境問題に関する説明は参考になった。 / 学部混成クラス編成により教員および学生自身が不足能力に気付くこと。 / 工学部の学生の表現力をコアセミナーで動機づけして、卒業までかけて養成していく努力が必要と思われる / コアセミナーの位置づけに見習うべき点がある / 学生の希望(選択)を取り入れるやり方は参考になった / 全学が統一されたコアセミナー実施の取り組みは九大も取り入れてはどうか？ 現在の部局単位の実施では学生から見たテーマ設定の多様性が低く、モチベーションの低下が懸念される / 文系と理系の区分をなくす。通年必修。 / 漠然として“コアセミナー”として実施するより、担当教員のカラーを出した名大方式はおもしろい。“コアセミナー”に必ずサブタイトルを付ける様にしてはどうか。 / 「読み・書き・話す」コモン・ベーシックによる多面的な知的トレーニング。基礎セミナーは教員のFDでもある。 / テーマ選択における希望をどう扱うかが難しいという報告に同感した。ディベートを活発化するための工夫はぜひとり入れたい。

(質問2) 講演「長崎大学の導入ゼミの現状と課題」において、九州大学のコアセミナーに通じる課題が見出されたとお考えでしたら、その課題をお教えてください。

プレゼンテーションの意義。10名という人数の問題。 / 九大でもキャンパスごとに学部をこえてコアセミナーができないか。コアセミナーの評価も全学で統一してはどうか。 / 長大では教育担当センタ

一でとりまとめられ、教養科目として行われている。九大では学部で専門に収約していくような科目として位置づけられている。セミナーのスタイルが、コアセミナーの目標にある広い教養、ヘテロな不均一な学生や教員という点で検討されるべき。/ 全学混合はすばらしい。しかし、九大では物理的に不可能 / テーマを非提示とし、教員と学生の合議で決定する方法（双方向性の確保）。学部混成時の教員のカリキュラム調整、教員の負担増。 / 発言、討論能力の育成方法 / 担当教員にやる気がない場合が多い。意義が担当教員やTAまで十分理解されていない。 / コアセミナー終了後、数年経過した後の学生に対し、その評価をさせること / 1クラス 10人程度の少人数セミナー / 同一アンケート項目に対する学生と教員の評価の差 / 教養セミナーを担当したくないという教員も多い。10人でのディスカッションは難しいようだ。（その機会があったにもかかわらず）その辺りで両者のズレがあるということ。 / 九州大学としての取り組み。準備実施にかかる時間が長崎大学に比べ全く足りない。理事が言うよう重要視しているのならもっと真剣に取り組むべき。やはり全学混成ですべきだ。視野の拡大と社会性の獲得には有効 / プレゼン、ディスカッション。他己紹介。 / 授業目標に対応し具体的に示された授業評価項目の設置。事例集の作成（担当教官が交替してもレベルを維持する）。 / 少人数教育になればなるほど教員の質の重要性が増すと感じた。 / 学生の希望（選択）を取り入れるやり方は参考になった。 / 学生の高い評価は何故得られているかを本学も良く分析し、取り入れるべきは取り入れるべき。私は1-1の課題に尽きると考える。 / 学部混在型クラス編成。テーマは話し合い。 / 文、理融合の点力評価ができる。 / テーマを考案し、その結果を出すという作業は、非常に労力がいる。ステレオタイプの結論となった場合どうすれば良いのか？ / 講義評価について参考になった。学生がコアセミナーをどの様に受け取り、効果をあげたか、学生の声を聞いた方が良い。学部混成に意味あり。コアセミナー（学部別）ははたして妥当か？ / 課題探求型授業。ディスカッション、授業内の発言が低調。 / 学部混在のグループ編成は大変興味深く感じた。テーマを学生に決めさせるというアイデアはぜひ取り入れたい。 / 全学教員のシャッフルは面白い試みだが、九州大学では無理だろう。

（質問3） グループ討議において、重要な意味を持つ課題は何であったとお考えでしょうか。その課題について、お教えてください。

学部によって取り組み方に差がある。共通の問題意識も必要なのではないか。教養と専門との関連（コアセミナーにおける）。 / 当学部では独自のカリキュラムで行っているのではたして全学のコアカリキュラムは当学部に必要なかわからない。 / 九大の各学部で個別にコアセミナーをしているので、各学部でコアセミナーに対する力の入れ方に差がある。 / 指導教員間におけるコアセミナーに対する取り組みに対する温度差。 / 学部内でさまざまであるが、皆それぞれよりよきスタイルを目ざして努力していることがわかった。カリキュラム、教室、PCなどすべて学部任せられており、負担（各教員への）がとても大きいこと。すでにコアセミナーに代わるカリキュラムを学部によりすでに準備されていたところも多くあったことから、位置づけが不明。概念が浸透していないことで内容にバラつきがあり。 / 部局別に行っていることは効果的である。FDも部局別の方が効果的であろう。他の部局の実践法はそれなりに参考になった。 / 学生がディスカッションできる雰囲気作りは、担当教員の工夫が必要。コアセミナーに不熱心の教員のモチベーションを高める方策が課題である。 / 学部間で対応に温度差が大きい。方向性など、全学主導で徹底を図るべき。 / 評価の方法。グループの人数の適数。 / 学生（+教員）のキャンパス間移動に対する手当（工学部・伊都⇄六本松の補助が5回分!しか出なかった由）。統一的なフォ

ーマットがあった方がいいのか否か。学生からの発言をどう引き出すか？（ディベートが成立しない…）。 / 各部局によって、テーマの選択、講義内容（専門性に関連付ける部局、関連付けない部局等）、方法について多様であること、このことの肯定的否定的の評価が必要（テーマは人間性と社会性に関連が無い専門の技術的基礎を行う教員も） / 成績の評価が担当の先生によって異なる。やり方や考え方が部局ごとに異なり学部混在型は難しい。 / クラス分け。担当教官のモチベーション。 / 教員のモチベーション、負担感。テーマ・グループの設定方法（機械的な割り振り or 希望調査）。 / 医、理の先生にはコアセミナーに全く無関心で、研究中心で何が悪いといった風潮があり、教養教育より多くの専門をということに終始していた。先ずは、コアセミナーのシバリのようなものが必要かと思った次第です。 / コアセミナーの全学教育として位置づけがあいまいであった。 / 各取組みがバラバラなので、全学FDではなく各部局FDの方が効果的ということが明らかになった。 / 教育を統かつする人が各学部には不在であること。 / 別の学部の人のお話を聞く機会が少ない。他学部の問題を知る時間があつた方がよい。全学教育に負担が大きすぎる。コアセミナーをこれ以上負担にしてはいけない。学部混成は現実的に困難。各学部にまかせの方が負担が少ない。 / 芸工とはかなり違う / 教員の負担。（のめり込むときりが無い。評価・教育効果が高いということで担当者の責任は重い。他の業務とのバランス） / 文・理でのコアセミナーの位置づけの差 / 教員の「やる気」のバラつき / 現状是定的意見が多いことに少々おどろいた。つまり我が部局は実施法に問題があるのか？ 重要な意味を持つ話題と言うべき事ではありませんが…。 / キャンパス間移動（バスの貸切）、予算。 / 環境の確保 / コアセミナーのやり方、時間配分の仕方。クラス分けのやり方。科目としてのコンセプト。 / コアセミナーの位置付け。専門への基礎導入か、より一般的か…？ 学部横断型指導の必要性の有無。 / 適当なテーマ選択、適正なグループ規模の決定。セミナーにおける成果報告はどのような形式をとるべきか。学生の積極的なディスカッションへの参加の促し方。

（質問4）全体会の報告：次年度に向けての課題（全学FDホームページに要約を掲載）に付け加えること、あるいは説明が必要であるとすれば、どのようなことがあるとお考えでしょうか。ご教示ください。

九大の移転問題と全学教育のあり方が分科会でも話題になった。全学FDもこのあたりを整理する必要があるのでは。 / 次年度の全体会の為に全学部の報告書をまとめてほしい。 / 現場で非常に混乱や困惑があること。学生の人気やアンケート結果では良い結果がでていること。今のままでコアセミナーを来年行うのではなく、やり方を見直してはどうか。 / 全学レベルの統合性。 / 学部間の混成が重要（総合大学として）←名古屋大、長崎大の例。 / 目的（人間性と社会性）の意識化の徹底。 / 底上げが必要だ。 / 負担については担当教員以上に教務の教員がたいへんと思う。もう少し全学的に議論して欲しい。TAも含めた予算措置をして欲しい。工学部は半額、学科で負担していたと聞いている。センターはそれを知らないようだったことが問題だと思う。 / 今回のFDを通してより全学のやり方に不信感がましました。本当に教育のためにやっているのか全学の実績づくりのために急いでやっているのか。 / ? 芸大との意見交換。 / 教員個々へのコアセミナーの理念を明確に伝える必要がある。 / 現状是定的あるいは現状説明的な話に終始してしまい、良くしようとする建設的ディスカッションが成されなかったのは残念。 / 教員の負担 / 科目のコンセプトの周知（担当教員・学生）。教員の負担増の問題。基礎整備（教室・パソコン・TA etc.） / 各学部の報告は学科間での事前の打ち合わせが必要では？

(質問5) 今回のFDを通して、九州大学のコアセミナーの目標や課題についてのお考えに、そのような進展がありましたでしょうか。そのことについて、あるいは、コアセミナーへの取り組みにあたって留意すること、そして、部局や大学へのご要望など、ご意見をお聞かせください。

まだ始まったばかりなので、反省を具体的に抽出し、今後に生かしていきたい。/九州大学はキャンパスがはなれているので、全学でのコアセミナーはできないが、各学部でしたテーマをFDホームページ(HP)に公開し、その評価もHPにのせるようにする。/2年生で専門に上がってきた学生をみると、読む、書く、調べる、発表するができているとはいえコアセミナーの教育目標は素晴らしいと思うが、反面すでに専門に入る導入の科目を以前から1年生に対して行っていることから、今の学部任せられたコアセミナーの形式は不必要ではないか。名古屋大のような教養科目として他学部入りまじったスタイルで行うのならば意味があるのではないか。各教員の負担はすべての面で増える一方で、皆がそれぞれ努力はおしんではないと思われるが、もう限界にきているのではないか。今のような各学部へすべて丸なげのようなやり方ではなく、導入の方法を準備していただきたい。つねづね1年生の教養部(?)でのすごし方にふしぎに思っている。全学で必要と思うPowerPoint、Word、Excelの使い方などは、e-learningや外注などの予算化も考慮した教育、(教員の負担を考慮した)を準備をお願いしたい。/部局間である程度、評価方法についての統一が必要だと思う。殆ど、個々の実施例をひたすら聞くことに終始した。実施例だけであれば、要約を印刷物で配布すれば十分な気がする。4時間も時間をかけることではないと思う。/他大学、他学部の内容を聞くことは有益でした。/コアセミナーの課題(発言・討論能力etc.)が、全国的に共通する課題であることが確認でき、admission policyをはじめ、組織的かつ精力的にとりくむ必要性を痛感した。/新入生には学部を知る以前に大学を知ってもらうことが重要である。そのためには学部混在型のセミナーを開講することが望ましいが、大学全体でコアセミナーの主旨や考え方を統一しなければ、実現は困難であると思われる。六本松—伊都キャンパス間のバス代は(1回約2000円)全学で負担していただきたい。/コアセミナーの評価として学生からのものについて詳しく調べるのは良いが教員側の評価も調べておくべきではなからうか。/脱落する学生もなく、概ね教員の評価は高いが、学生の授業評価を知りたい。クラス担任の存在意義?/学部や学科ごとに実施内容に大きな違いがあることが分かった。学部、学科ごとに教育目標が異なるので、統一の必要は特にないと思う。コアセミナーの授業アンケートの結果を学部・学科ごとにフィードバックしていただきたい。/各部局で責任ある対応が必要。医、歯の意識が低いように思う。/学生評価のフィードバック。/学部まかせでは荷が重すぎる。学部混成を含めてもっと議論して欲しい。必修にしなくてはよいのでは。少人数セミナーを強化する形も考えてほしい。つまり少人数セミナーを全学の教員に広げる、各学部に担当者を分りあてるなどまったく別の方向も考えてほしい。現状ではあまりに無責任ではないかと思います。FDにコアセミナーを全く知らない人が来ていた。細かい事情がわからないが、お互いに無駄なので今後そういうことはなくしてほしい。/いつも全学からタマが十分な意義も不明のまま強制的にふってくるので、箱崎人間には全学に対して不信感がある。筑紫側のカリキュラムがそのタマに対応できる教員の負担を倍増している。これまでの「少人数ゼミ」の方がいろんな学部の教員と学生が少人数で交流できテーマも学生が立体的に選べるのでいいのではないか。なぜ「少人数ゼミ」でなく「コアセミナー」なのか。「コアセミナー」とはなんなのか。全てはあやふやなまま、とりあえずタマを受け止める。学生さんの自立性、学生さんと近いセミナーができるのでこれまでにない機会が強

制的に与えられ、結果的に良かったかと思う。工学部のように、全学から強制されるまでもなくやっておくべきだった。学部教務員は自分が言い出したのではないこんなことやれと言われたのでやって下さい、となる。黒幕は誰なのか、黒幕が学部学科をまわって意義を説明すべき。グループ会議、全体会ともレジメもなく人の話を聞くだけで非常に分かりにくい。短くとも各学部でレジメを用意して配るべき。コアセミナーを受けた学生さんが聞いたらびっくりするだろう。こんなやり方では。地理的もんだいはいろんなイミで九大の大きな問題。イトキャン移転でさらに悪化しそうである。遷移状態が長すぎるので。/ 学生から評価が高いとともに、教員にとっても中心的に進める研究の他に、のびやかに行える大学本来の知的活動にもなり得る点で魅力的だと思います。これを行うには近年増え続ける一方の業務とのバランス、負担の調整が必要だと感じます。少人数セミナーとの関係、学部で囲い込む前に総合大学を前面に出した高校生→大学生への導入教育は？ / 実際にコアセミナーを担当しているが、学生への自発的モチベーションの低さ、つまり「やらせている」と表現できる実施状況は大いに問題。部局の問題と言えばそれまでだが、名大、長大での全学統一的な取り組みは、この問題を解決する有効な手段ではないかと強く感じた。一考に値するのでは？ / 学部混在は理想かもしれないが、実施は困難かもしれない。/ 他校の整備は配慮する必要がある。六本松の施設開放の時間帯。/ 学生による授業評価のデータをいただいたので、その解説・分析を簡単にしていただきたかった。/ 長崎大学の教養セミナーにおける革新的な取り組みは今後コアセミナーを改善するにあたり、大いに参考になった。/ 全学で統一したコアセミナーのもっと具体的な要領があればやりやすいが、各部局によって学生募集の方法も違っており、一年生の帰属意識も違ってくるため、統一的な実施は困難ではないかと思う。